

福島原発事故による 放射能汚染と森林・木材 Part II

東京電力福島第1原子力発電所の事故から放出された放射性物質は、福島から北関東の山間部に広く拡散し、地域の森林、林業、木材関連産業に大きな影響を及ぼしている。事故から二年半が経過し、大学や研究機関により森林生態系や木材、林産物への影響の調査が進み、実態が把握されつつあり、同時に生活圏への除染等の対応が進められている。一方、放射性セシウム137の半減期は30年と長いため、長期的な取り組みの検討が必要である。とくに森林は広大な面積を占め、その除染には莫大な経費がかかるので、生活圏の除染に比べて優先順位が低いが、今後流域を含め長期的な対策が必要となる。本シンポジウムは、25年11月7日開催の公開シンポジウムに続き、緊急に求められる対策やその長期展望について最新の科学的知見をもとに、多角的な視点から議論する。

日時：**平成26年1月24日（金）13:30～17:35**

場所：日本学術会議講堂

（地下鉄千代田線 乃木坂駅 下車 徒歩 3 分）

主催：日本学術会議農学委員会林学分会

共催：森林・木材・環境アカデミー、認定NPO法人才の木

会費：無料 ※どなたでも参加できます。

開会挨拶 川井秀一（京都大学）

講演者

森林総合研究所 高橋正通氏

「森林・木材の汚染実態と長期モニタリングの必要性」

東京大学 大手信人氏

「集水域生態系における放射性セシウムの移動・蓄積の実態把握」

山形大学 早尻正宏氏

「地域林業の原発被災と担い手問題」

東京大学 石田 健氏

「野生生物を調べてわかること」

パネル討論会 コーディネータ 田中和博（京都府立大学）

閉会挨拶 鈴木雅一（東京大学）